

会 議 録

会議の名称	令和3年度第4回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年3月10日(木) 13:30~15:45
開催場所	天草市市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、江良委員、小田委員、木村委員、澤田委員、西村委員、山下委員
欠席者氏名	小川委員、黒沢委員、森本委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和3年度第3回天草市総合政策審議会会議録について (2) 令和3年度市政に関するアンケート結果について 4 議 題 (1) 第3次天草市総合計画基本構想について 5 その他 (2) 令和4年度天草市総合政策審議会スケジュールについて 6 閉 会
審 議 内 容	
<p>議題(1) 第3次天草市総合計画基本構想について</p> <p>○事務局より説明</p> <p>(会長) それではこの議題に関しまして審議していきたいと思います。</p> <p>将来像と理念と2つありますので、まずは、将来像を審議させていただき、のちほど、理念を審議すると分けていきたいと思います。</p> <p>説明をお聞きいただき、ワークショップなどで熟度が上がっていく中だと思えますが、委員皆さんは地域で活動されており、多角的に関わられている方々ですので、そのような観点も含め、このようなことを意識したほうがいいなどお気づきのことを出していただければと思います。</p> <p>(委員) 事務局で非常によく考えられるており、感心しました。</p> <p>ただ一つ、第3次天草市総合計画の将来像が硬い表現と思いました。第2次総合計画では、「人が輝き 活力あふれる 日本の宝島天草」と、非常にキラキラ輝くようなキャッチフレーズとなっていました。今回は「ともしながり 幸せ実感 宝の島天草」と表現されています。また、「日本の宝島天草」という言葉が「宝の島天草」という表現されています。これからはますます国際化が進み、また、地方創生が進んでいく中で、「日本の」という言葉を踏襲する必要がないかと個人的には思っております。グローバル化が進み世界から多くの方が天草市に来て、また外国の方が移住されるような時代になると、「世界の宝島天草」ともっと広い視野から取り組むこともできるとも思います。今回は、2030年までのあと8年後の</p>	

期間ですから世界は少し無理かと思いますが、せめて中間の「日本の宝島」とすることで天草が光ってくるのではと思います。

(会長)事務局は色々と協議をされた中でこのフレーズを作られたと思います。確かに「日本の」をあえて外した理由など説明をいただければと思います。

(事務局)今回、「日本の」という言葉をどうするか本当に議論をいたしました。第1次天草市総合計画から「日本の宝島天草」をキャッチフレーズとして使っており、踏襲しなくていいのかも含め議論させていただきました。結論としましては、先ほど委員からご意見がありました、やはり日本だけじゃなく世界に行くというこのグローバル社会の中でどのようにあるべきなのかという考え、また、「日本の宝島」という部分を、もう一回、「天草は宝の島」ということを市民の皆さんに気づいて欲しいということを含め今回は「宝の島」と表現にさせていただきました。

(委員)広い理念や視野も含め、今回は「日本の宝島」ではなく「宝の島」という表現されたということが分かりました。

(事務局)第2次天草市総合計画の中での「日本の宝島天草」の補足説明書きでは、「本市には素晴らしい自然、風景や豊富な農林水産物そして独特の伝統文化など、他に誇れる多くの宝(地域資源)があることを意味しています」と記載しております。天草は、日本の宝島でいろいろな資源があることは認知されてきていると思います。今後はこの宝を磨いて活かしていくということで、「宝の島天草」と少しアレンジさせて頂いて、言葉のニュアンスも含め今回は「宝の島」と表現をさせて頂いております。

(会長)確かに今回は、「の」が入っています。ちょっとした違いと思われるかもしれませんが、全て言葉には意味を持ちますので、ぜひここは逆にこうしたほうがいいのか、説明を聞いて納得すればそれでもいいかもしれませんが、もしかしたら外したことで何かポイントがなくなっているということがあるかもしれません。そのような観点も含めご指摘いただければと思います。ここは時間をかけ丁寧に進めていきます。

(委員)理念の経済の中で、様々な産業がつながり、新しいその産業を生み出すという表現が使われ、雇用を増やそうという内容が含まれていると思いますが、既存の事業者は、天草市と一緒に高齢化が進み、続けていきたいが辞めていくというところが増えています。このことを逆に捉え、新しい方に事業の引き継ぐ、継承してもらう方向に持っていかないといくら企業誘致を行っても、これまで培ってきた部分はすぐにはできないと思います。現に辞めたいと言われる方の事業をそのまま引き継いで行ってもらおうと雇用も失われません。ここの部分が一番大切ではないかと思っています。この課題は、農業にしても後継者がいないことは現状だと思っています。天草の経済・産業ではこの部分を一番に今考えなくてはいけない課題と思っています。理念の中には、引き継ぐや継承などの言葉がキーワードに入っているといいのではと思います。

(会長)今の委員からのご意見は、理念の部分になりますので、改めて議論したいと思います。ご意見いただいた事はおそらく、継承していくことは繋がることにもなり、

将来像でも意識した方がいいと思いますし、幸せ実感の部分でも、単に自分が頑張るだけではなく、継承し繋がっていくことで横に繋がるというイメージもあるかもしれません。将来にわたってどんどん繋がっていくという事で、きちんと幸せを感じられ将来の不安もないためにも引き継ぐという意味もあるかもしれません。ともにつながり幸せ実感のフレーズに、そのような意味があるのかというご意見にもなるかとは思っています。また、繋がりがあると、未来につながっていくというところでの重要なポイントとしてご意見いただいたと思います。そのあたりはぜひ理念の方でも参考にしていただけたらと思います。

(副会長)まずは、本当にすごくいい感じで進んでいると思います。新型コロナの影響でワークショップが実施できていませんが、逆にゆっくりみんなで作っていくことをやっていくチャンスだと思っています。そういう意味ではコロナ禍があけたら万全な体制でやっていくのがいいと思っています。私は、前回の総合政策審議会のあとから、みつばちラジオの帯番組で2月3月の毎週木曜日、8回分話させていただいています。

今回の「宝の島天草」っていうのはすごくいいキャッチフレーズですが、この前と後に具体性が欠けると感じました。繋がるっていうのは大事ですが、どう繋がっているのもう少し具体的なイメージを持たないと、ただ単に怖いからみんなが手をつなぐ、闇雲に一緒にいれば安心といった同調性を感じてしまいました。つながる前には、まずは知ることが大事ということを入れていかないといけないと思っています。ただ闇雲に手をつなぐのではなく、適切な人と適切なパートナーシップをつないでいくということが大事だと思います。

あと、冒頭に説明がありました「ともに作り上げてく計画」が大事だと思います。つながっただけでなく、ともに作るという事を意識した総合計画ではないといけないと思います。計画は、日々点検し実践していかないと回らないので、そのようなイメージを持ってもらうことが、すごく大事と感じています。

繰り返しになりますが、今回示された将来像はすごくいいと思いますので、その前後のイメージをどうやって持っていかっていうところが大切だと思います。あと、理念になりますが、「経済」と「環境」はすごく分かります。しかし「暮らし」と「ひと」はベーシックなものとしてあると思いますが、「暮らし」がよくわかりません。「暮らし」と「ひと」はまとめて「ひと」になるのではないかと。行政サービスでは分けられると思いますが、市民目線で見るとはちょっと分かりにくいと感じます。主な分野と書いてある福祉っていうのは、行政サービスとしては「暮らし」に入るかもしれませんが、家族的にみれば福祉は「ひと」の方に入ると思います。他にも高齢者になっても働きたいや高齢者とレジャーに行く、未就学児の子育てなどもあります。主な分野は行政側から見ていて、市民目線で見るとの位置付けとなると暮らしの位置付けが見えにくいと感じたところです。この部分は議論が必要と思いました。事務局がよく検討されていると思いますので説明をいただければと思います。

(会長)「暮らし」の話はのちほど審議したいと思います。特に「暮らし」も意識するか

らこそ、将来像の前後という形でのご意見だと思います。「暮らし」をどう分けるのが曖昧とのご指摘もいただいたと思っています。今回の審議会では、色々な意見をいただき、その意見を踏まえて今後検討していきたいと思っています。もちろん委員の皆様から出して頂いても構いません。

将来像として、皆さんに分かりやすくするためのフレーズとした感じがあります。キャッチフレーズとして考えますが、あくまで将来の天草市 2030 年の姿を描こうというものになります。この 2030 年の姿を描いて、その下に理念という言い方をしていると思います。その将来像のフレーズを具体的に解きほぐしていくと、今は 4 つの切り口とされています。場合によっては 5 つになるかもしれませんが 3 つかもしれません。そういった現在は 4 つが切り口でさらに具体的に考えるのが理念となります。そのため、先ほど委員からのご意見がありました理念より将来像の方で書くことを考えることも必要と思っています。大きな目指す姿としては、例えばつながりってことを言ったとしてもそのつながりというもの、つながるには知ることが必要で、一緒に作るからこそ繋がる、未来に繋がるために継承していく、そのような言葉が何を意味しているのかを今確認していくことが重要で、それを踏まえて理念としてさらに具体的にするのか。将来像は英語ではビジョンです。ビジョンはこういうビジョン、要するに将来の景色としてはこういうことを表します。理念はいわばゴールを示していて、そのビジョンに辿り着くにはこういうゴールが必要なので、今考えようとしているわけです。このため、つながるには前後のことが無いといけないということや、未来にもつながらないとおかしいなど、ともにつながるということでお互いに影響し合うことが必要であって、そのような一つ一つの言葉が何を意味しているのか、それを更に理念では何を受けたものなのかなど、そういったことを考える時間が今日の時間だと思っています。今日は気になったことをどんどんご指摘いただくといいと思います。

(委員)「環境」、「経済」、「暮らし」と表現されていますが、3 つのベクトルそれぞれが交わるということが地域の暮らしになると思います。このため、全体の下に地域と文化とありますが、全体が文化なのか暮らしなのかで考えると、文化含めて多くが地域の暮らしになるという見方だと思いました。その部分で起点となったのが、アンケートの結果になります。継承すべき文化や歴史の伝統、文化に触れる機会がどうかというところは年々減少しています。いろんな地域の祭りは新型コロナの影響で 3 年実施されていないところもあります。今後、このようなものをどう伝えていくのが文化の深掘り、もしくはその具体的な解釈として読み取れると思います。もう少しアンケート結果からも強調したほうがいいと思いました。

あと、この 4 つのカテゴリーですね、キャッチフレーズに向かうところの導引としては非常に分かりやすいと思います。しかし、文化というところももう少し抑えてもいいと感じました。

(会長)様々な基盤となる文化のことをきちんとどこに意識するのか、さらにこの将来像

においても宝の島に入っていると説明には書いてあるかもしれませんが、それが埋没するのではなく、皆さんで作っている日常の中から作られていくものが文化という訳ですから、それが過去にあるだけではなく、今からもともにつながって作っていくということも重要な要素だということです。言葉には本来含まれていることがあると思いますのでそういったことが抜け落ちない、曖昧にならないようにしていただきたいと思います。

(委員) 崎津の集落の世界遺産の取り組みを知っているという人の数字が減ってきているというところですね。その成り立ちや、旅の楽しみなどで人に出会うとありますが、我々自身が天草のことや、歴史のことを分かった上で伝えていくことが、出会いの原点のような気がします。本当に世界遺産の部分を知っているという人がこれだけ少なくなっているということは、あえて強調してもいいと思います。

(会長) 今、みなさんが感じていられることをどんどん言っていただき、そこをさらに意識するからこそという切り口で進めていくことがいいと思います。

(副会長) 今の意見、私も賛成です。

あと、示されている図は、2次元ではなく3次元で表現された方がいいと思っています。天草市には旧市町という10個の宝があるみたいなイメージだと思います。河浦には河浦の、有明には有明とそれぞれの文化、地域文化が違うことが前提であって、一方では天草はひとつということです。天草市全体でどこでも同じサービスが受けられるというのは大事だと思っていて、よく私たちは文化と文明という話をしますが、どちらも大事です。地域にはそれぞれの文化があり、そちら側で頑張ることと、天草は一つなのできちんと税金を払って、みんなで行きましょう。その2つの中で、「経済」「環境」「暮らし」がつながり、そういうのを立体的な感じで表現できないかと、すごく難しいとは思いますが、私たちも手伝いますので。

(会長) 理念をどのように表現していくのか結構難しさがあると思っています。同じように並列なのか場合によっては組み合わせる事など、この後の理念のところで議論したいなと思っています。

副会長のご意見のとおり、天草市は、以前は10の自治体があり、その中でもそれぞれの地域でやっていたし、集落・地域で試行錯誤してやっていることも沢山あります。身近なところでいろんな挑戦をすることもありますし、1つの天草をみなさんで作っていくということに挑戦することもあります。ですが、根っこには文化といういろいろな要素があり、これまで培い、人々が作ってきたものがあることもしっかりと置かなくてはいけないということもご指摘いただいたと思います。そのようなことも踏まえつつ、こういった表現がこういう意味でここにあげ、このことを具体化していきたいと思います。だからこそ、将来像はシンプルで聞くと分かりやすいかもしれませんが、一つ一つの言葉は深いということだと思います。どういう意味を持たせているのかをできるだけこの場で確認し、それを踏まえて理念を具体化していただくことが重要になっていると思います。「幸せ実感」はどうでしょうか。

(委員)「幸せ実感」はすごく主観的でそれぞれで幸せの感じ方は違うと思います。綺麗な言葉ではありますが。代わる言葉が何かは分かりませんが、みんながこれをやればいいんだ、ここを目指せばいいということが、幸せ実感だとちょっと広がりすぎるというかばらつきがあるというか、なんとなくひとつになりにくいような気がしています。イメージ的な感じがあまりにも強いかなと。

(会長)本質的なところでありつつも、何をするのか、どのようにこのことを捉えるのかと。自分事だと言いつつも人ごとになりやすいのかもしれませんが。少し気になるフレーズではありますが、あえてこの言葉が重要かもしれません。事務局でも議論や調査結果などを踏まえて示されていると思いますので、補足の説明をお願いします。

(事務局)「幸せ実感」につきましては、参考資料になりますが、策定方針やアンケート結果、市政座談会というものの中から、キーワードとしていくつか言葉をピックアップさせていただきました。その中に、全体的に繋がるものとして「幸せ」が大きなものになるというところで示させていただいたところです。特にアンケート結果の中で10年後のあなたの暮らしはどのようになっているといいと思いますかという質問の中では、若い方は少なかったのですが、幸せに暮らしていればという、幸せって言葉がダイレクトに出ているものが多くあります。60代以降の方は、穏やかに生活できる、言い換えると幸せかというところになりますけれども、最終的には皆さんが幸せになることが一番ということと考えております。その中で、2030年のなりたい姿になりますので、2030年には、ともに皆さんつながり、幸せが実感できている天草市ということで、「幸せ実感」と表現させていただきました。

先ほど委員からご意見をいただきました幸せへの価値観は1人1人が違うとは思いますが、例えば健康で暮らしていることや人と繋がっていることでの何かを成し遂げたことでの成功による幸せなど、それぞれ価値観は違うとは思いますが、地域の中で暮らしていく中で、それぞれが本当にその時その時の今の暮らしに幸せに感じられるまちづくりが出来ていればということで、そのような気持ちも込めて「幸せ実感」と示させていただいております。また、笑顔や幸せ、そのようなことで暮らしやすさにつながるという部分がありましたので、大きく捉えて「幸せ実感」とまとめさせていただいたところでもあります。

(委員)アンケートに答える人はそのように書くのかなと思います。幸せになりたいと。でも、こう1つのことをみんな目指すポイントみたいなものを掲示してもいいのかなと思いました。私もアンケートの回答を一生懸命考えます、答えに困ると幸せになりたいと書いてしまいます。なので、もう少しどういった方面でみんなが幸せになろうと、何か示唆するようなものがあってもいいのかなと思いました。

(会長)先ほど、前後という言い方にもつながると思いますが、一体としてどのような状況をどう捉えていて、それに対して今後このようなことをしていくことを想定するから幸せを位置付けることが必要だと思います。困りごとでなくていいと思

ますが、こういう状況を見ていて気になるからこそ、あえて幸せって言葉を言い、それに対して今後こういうことをしていくと意識するからこそこの幸せって言葉が合うといったところを具体化する事、この幸せをどうやって培っていくなど色々考えていく必要があると思います。幸福とか幸せに関しては、色々な方々が色々な研究をし、色々なことを指摘している訳ですけども、個人個人が持っているものが正しくそれは個人の実感することであると思います。ですが、人々が影響しあって、共助の世界かもしれませんがお互いで支え合うことや、具体的に助け合い、お互いに暮らしの中で、良さを感じられるというところからも幸せが出てくる訳ですから。ここで問われる幸せをどう捉えるのか、さらにこの幸せというのは漠然ですが皆さんが一般的に幸せを求めていると思いますが、ライフステージによっても全然違い、状況でも違ってきます。それに関して丁寧に見ていき、意識するのであれば幸せのフレーズを使うのはいいのかもしれませんが、総論的にこう気持ちの変化を幸せと言ってしまうと弱いかなと思いますので、我々の中でも高めていく必要があるかなと思います。

(委員)この幸せ実感という表現ですが、天草市では幸福量調査にこれまで取り組んでおられます。たしかに、幸せってというのは個人に捉え方が違うと思います。住む地域によって年代や性別でも違うと思います。しかし、これはあくまでも2030年までの天草市が目指す将来像ですよ。ここに幸せって書いてある言葉で向かえば、おそらく天草市民の皆さん方があと7年後も6年後も幸せをどこでこう実感していくという、道案内になると思います。確かに色々な幸せを求めるときに、果たして今現在、自分が幸せになるかを考えてみると、将来像にはこの幸せ実感という表現でいいのではないかなと思います。具体的にごちゃごちゃ書いても個人で違うので、非常にこう表現が難しくなるので逆に抽象的な部分として幸せ実感と表現し、どれくらい幸せを実感しているのかを市民への追跡調査も出来ると思います。まとまりがない意見ですが、そういった幸せ実感という表現の方がいいと思ったところです。

(会長)議論していくと結構確かに深いところはあります。幸せもそうですし、実感の方に意味があると今聞いて思いました。確か熊本県は幸福度調査を長くやってきて天草でも調査が行われていると思います。そこで得られていることから何かこの幸せってことをどう捉えるということを考える一つになると思いました。幸せ実感の「実感」の方になりますが、実感というのはそれぞれ感じることであって誰かがこうやりなさいとか、こう幸せにしてあげますとかでなくて、それぞれが幸せになっていくってものであって、そういうことをどう促していくのか、それはつながるってことの前にもという言葉があるということから実感できるようにしていこうってことをかなり強力なメッセージになっているのかもしれませんが。そういったようなことが、ここに入っているのであればいいのですが。我々には議論する責務あると思いますので、こういった方向でいいのかとかなどさらにご意見いただければと思います。

(委員)私も将来像のキャッチフレーズとしては幸せ実感でいいと思います。なるべくシ

ンプルにして伝えることが大切であって、ただそれができた背景や要素としては、多様な価値観が色々な人の幸せが実現できる場がある、ある人はお金かもしれない。健康かもしれない。何も無いことかもしれない。でもそれぞれの価値観が実現できる場というところがこの宝の島、ここ天草はいい場所だということをつつ括して言えるのかもしれないので。ズバリこの幸せ実感っていうところは一つのベクトルとしてだけでなく、多様な価値観を共有できるそれぞれ許せるということを伝えられる言葉ではないかと思いました。

(会長)それぞれの価値観が多様なものがあり、それを実現でき、それぞれが実感していくということを指しているってということにも意味があることということですね。このことだと、すごくこのフレーズとしては明確化できたと思います。現状の素案の資料では、幸せ実感について簡単な説明はありますが、今回の議論の内容を含め長くなってもいいので、このようなポイントがあることを書いておくことも重要と思います。それを踏まえてさらに理念を具体化していく、さらに理念を実現するための計画を作っていく。こうすることで、この計画は絵に描いた餅ではなく、実践していき、活動になるみたいなことになるとと思いますので。きちんとポイントを押さえておくということが重要と思います。

(委員)先ほどの委員の話で、SDGsの多様性の方はいいと思いますが、多分すごく悩まれていると思いますが、持続可能性を入れるか入れないかっていうのは、結構大きいことだと思っています。入れ方も色々あって、例えば久慈市の方では輝き続けるというようなあの言葉を入れたりしています。ただの持続可能という言葉入れなくていいと思うので。ビジョンの中に「ともにつながり幸せ実感宝の島“天草”」の中に、サステナブルっていうのはどう入れているのかってことを議論していかなければいけないと思っています。ある程度例えば、それぞれのとか、多世代に渡るとかいう話なのか、それはすでに言葉として入っていますというのであればいいのですが、そのサステナブルの意味は入れておいた方がいいかなと思います。

(会長)最初にご発言いただいた委員も同じような感じだったと思います。持続可能性って何か可能性の方が濃く見えるのですが、つなげ続けるということや、継承されていくってこともあると思いますし、ただ単に今の状況を維持するだけでなくより良い方向に向かっていくということも持続可能にはあると思います。それがサステナビリティってことだと思っています。そういったようなことをここに見えるようにしたいというのが、今いただいた意見だと思います。

それでは、次に理念の話を中心にしていきたいと思っています。

理念としましては現状では4つ、さらに図を示していただきました。先ほどから何回かこの図に関してはご意見をいただいています。まずは、この4つの切り口それぞれに対して意見ををお願いします。先ほど経済に関しましてはつながり稼げるっていう中に更に継承などの言葉が入ってもいいのではないかと意見をいただいたと思います。それ以外にも文化の話もあったかなと思います。文化の意味合いも昔あったことじゃなくて、何かの原点や、人がつながる大きなきっかけな

ど、色々なこともあるとのご指摘をいただいたと思います。

(委員)4つの理念の言葉がとても分かりやすく表現されていると思いました。あと、暮らしを視点に置いた理念というのと、先ほども「ひと」というところで少し不明瞭なのかなと思ったりもしましたが、暮らしを視点に置いた理念の、「やさしさと安心のまち」というところが多分、福祉の部分が含まれていると思います。ここにひとつ言葉として入れて欲しいと思ったのが、誰もが支え合い、誰もが安心して住み続けるという言葉を入れていただけたらと思いました。皆さんの視点の中にはあると思いますが、障がい者の方や弱者の方達のことをもう少し意識していただけたらと思ったところです。

(事務局)ご意見ありがとうございました。今後調整させていただきます。

今回、「暮らし」として示させていただいておりますが、この部分につきましては、前は「社会」と示させていただき、色々なご意見をいただきました。その後、事務局内で協議し、今回は「暮らし」へ変更させていただきました。前回の審議会の中では文化というご意見もいただき、本当に悩んでいるところです。どのように表現するのが一番いいのか、暮らしとすれば先ほどのご意見のとおり経済や環境と全てに入るのではないかなど色々意見を出しながら協議を進めてまいりました。その中で、今回は、「暮らし」と示させていただきました。市民に伝えやすい、分かりやすいという観点からです。表現の仕方には非常に悩んでおります。皆様から色々ご意見をいただければと思っております。

(会長)なかなか綺麗に分けるような世界ではないと思っています。全く別の4つがそれぞれ配置してそれぞれがバラバラでやっていくことではなくて、影響し合い、重なり、ぐるぐる回っていく、その中心にひとがいたりなど、それぞれがすごく影響しあっていることだと思いますので、綺麗に分かれなくてもいいと思っています。この4つの方向性を考えると色々なことがもっと見えやすくなり、考えやすくなる、そのようなフレームワークを作ればと思います。悩み、色々なことを皆さんで試行錯誤するとき、考えや気付きやすくするための分け方とも思っています。「暮らし」と表現したことの色々な考えを聞いて、ちょっとどうかと思いつつも分かりやすくなったのではないかと感じていたところです。皆さんがいろんな考えをしやすくなる感覚でご確認いただいてもいいと思います。

先ほど委員からご意見がありました、「誰もが支え合う」や「誰もが安心して」といった要素、「住み続ける」といった要素も重要なことと思いますし、特にこの福祉の分野はもちろん支え合うというところ、特に高齢者や日常に関わる病気などもあると思います。自らが活動することで自分も元気になるといわれる時代になってきています。そういった意味で誰かのためにだけじゃなく、自分のためにも一緒になって取り組むことが重要だと思います。そのようなことが書いてあるといえば書いてあるのですが、もっと濃く見えるといいと気がしました。

(事務局)現在掲載している主な分野につきまして、代表的なものを参考として記載しております。理念の下には政策があり、先ほど委員からご意見がありました。内容によっては「経済」の関係だけではなく「ひと」にも関係するなどという意見

もいただきました。そのような内容につきましては再掲とするなどの検討をしていきたいと思っています。また、冒頭に委員の方から事業承継など、継承にも色々あるとのご意見をいただきました。確かに創出という新しい言葉を書いています。承継という部分は必要と思っています。様々な考え方ということで、自分の代で終わるのではなく、皆さんでやっていく、つながっていくという、つながるといふ部分をうまく表現できないかなと考えているところです。

(会長)今、事務局からの説明で、再掲との言い方をさせていただきましたし、あっちこちへ影響して実現するようなことを掲げているはずだと思います。決して縦割りの行政の世界を作りたいわけでも全然無くて、担当があっただからでは全然実現しない事だと思います。ともにつながるっていうことは、まさしく行政に限らず、ひとつが一緒になってつながりながらできることをちゃんとやっていくという事が理念だと思います。そうすると試行錯誤して一緒に作っていく。だからこそ、色々なところが関わっているというようなものを図として示せると思います。難しいですけども。この4つでいく、また、1つ1つの中で気になる事など、何かご意見はありませんか。

(委員)経済を視点を置いた理念のところですが、農林水産業や商工業、観光業の産業のつながりというところで、簡単そうで難しく、具体的にターゲットを見出し、どのようなつながりを持つか、どのような人たちとやっていくのかなどが大切だと思います。昨日、同年代の企業の社長達と話をしていたのですが、天草市はすごくいいところで、外で会社を営んでいるが、アンケート結果にもあったように「天草に居住したいけど働くところがない」ここがすごく大事だと思います。そのために、承継するのかそれとも新しく作るのか、個人だと大変なのでグループをつくる話などをしたところです。また、私は、出汁の分野になりますが、今は日本全国からご注文があり、最近では海外の富裕層向けの色々な商品企画をお願いしたいという話もあっています。飲食や宿泊など色々なところから呼ばれています。これからどのようにつながって、どこをどのように支援を行くかなどが4課題と感じています。こう漠然過ぎて色々難しく、個人個人で話していてもなかなかまとまらない事が多いので、言うことは簡単ですが、働くところはどんどん減っている。だから天草に住みたいけど住めない。他所に行って、40代になって、天草に帰ってきたが働く場所がない。その現状に市としてどのようにアプローチしていただくのか、すごくいい事ですが、実際今でも出来ていないので。

(会長)理念としてはそうだと思います。なかなか悩ましいところです。しかし、既に天草市の中ではいくつかの兆しがあるのかもしれないので、そういう部分を紹介していくことも大切で、目指す方向を言うだけではなく、1つだけでなくもいいのですが、兆しや、まだなくてもこういうことや、産業がつながっていくって事でこういった事ができるなど、少人数でも構いませんので何人かでの案の作成や、情報を出してみても、こういうことを指しているというのもいいと思います。そうすると抽象的にいうよりも例えば、雑ぶしの世界だったら飲食とつながる可能性や、継承だったら一緒に始めることで今まではそのものを事業継承するみた

いなイメージだったかもしれませんが、引き継ぎつつも何かを加えて継承していくことをしないと、未来の産業にならない可能性もありますので。また、2030年のことをいくつか例示を出して行くことも重要かと思います。そうすると皆さんの見る目がパッと広がると思いますので。基本構想の中でそのような例示や兆しを紹介できるといいと思います。贅沢ですけれどもぜひ検討してもらいたいです。夢とかも出していただいてもいいと思っています。

(委員)第3次天草市総合計画の基本構想での将来像、理念では、目標になってこれ実現するための手段として、基本計画としてどのように実現するという2段階での構成で、具体的な政策に関しては目標値を立て、数字と合わせてやって行くとな具体的になると思ったところです。この目標に対しての手段が基本計画としてこれから議論するというところでよろしいでしょうか。

(会長)基本構想は、2030年の天草の姿、未来の姿を掲げ、状況が確認できるような指標を置く。その指標を目指して取り組み、指標の結果から難しいとなれば、やり方を変更するなどそのような作りとなります。将来像・理念、そして市民とともに目指す2030年のありたい姿になります。理念を踏まえ、さらにこういった具体的なものを出し、そのことに対して指標があると思います。委員のご意見は、実践していく、実現していく戦略的な動きが基本計画になるのかの確認だったと思います。基本計画は、前期と後期で分けて前期で取り組んでいき、見直しを行い次の後期で取り組んでいくこととなります。この期間にやることを考えて、まずは集中的にやる、その時にこの基本構想で未来の姿を描かれているので、実現するための計画になる訳です。その時の具体的な取り組みが実施計画であり、毎年予算を立て、この目標の元に取り組んでいくものになります。実施計画は、三層にした場合の一番下で根幹になるもので、目指すところは一番上の基本構想になります。第2次天草市総合計画でも基本構想では未来の姿を示しています。現にやれるかどうか別ですけれども、2030年の姿を描くことが基本構想の大きな役割だと思っています。事務局からも補足をお願いします。

(事務局)基本計画を進めていく中で今後具体的に説明して行くことになるとと思いますが、現在、それぞれの部門において基本計画の検討を進めております。例えば、現在は農業、林業、漁業、観光業それぞれが縦割りの政策となっておりますが、農林漁業のどの分野もつくる部分と、加工する部分と販売する部分は当然全てにありますので、やることを横串にしたところで政策として表現できないかと考えているところです。今まだ検討中ですので、本当にそれができるのかどうかわかりませんが、色々ご意見いただければと思っております。

(会長)基本構想には指標があるってことは前提にさせていただきたいと思っています。総論としてこう目指すということを決めますが、何をもって測っていくかが一つ考える起点になると思っています。未来の姿を実現しようとした時に、状態を確認できることでより具体的に地域の未来の姿が見えてくると思っています。総論的にこういった事だけではなく、具体的な状態を全て諮るのは大変ですし、できないこともあるかもしれません。少なくともこういう状態と諮る指標をおくという

ことが必要と思います。もちろん指標は事後的なものではなく、出来ているかどうかを確認し続けるものだと思います。

(委員)理念のところですが、4つの理念がある中に共通するような幸せ実感や、ともにつながるっていうのもフレーズが入っていた方が、将来像とのつながりを含めいいのではないかと思ったところです。

(会長)将来像を実現するための要素が理念だと思いますので、理念には、「ともにつながる」や「幸せ実感」という将来像を実現するために目指すことになります。そしてこういったものが出来ることでまちができていく、将来像ができると思います。理念という言い方ではなくても、まちの姿、目指すことといってもいいのかもしれません。言葉の選び方かもと思いました。

(副会長)委員の意見と、会長の話で考えた時に、構図が天草市で一つ決めてやっていくこともあると思いますが、旧市町でやっていく、各集落でやっていくことみたいにそれぞれの考え方は一緒がいいかもしれませんが、それぞれ地域差があって、うちは経済で頑張っていく、うちは産業よりも福祉で頑張りたいなど、この地域ではちゃんと深くつながって取り組んでいくという総合計画がいいと思います。例えば、街づくりの目標と、市政の目標のリンクづけをちゃんとしてとけばいいのであって、スケールによって変わるということを皆さんの話を聞いていて思いました。あと、時間軸です。10年後のことは考えられない。でも1日だと考えられる。1週間も考えられるし10日もまあ1年も考えられる。でも皆さんは30年とか、場合によっては100年のまちづくりや森づくりを考えていますと話をしていた時には考えられないとなってしまいます。これは、こういう空間の話と時間の話になります。100年後を考えるのか8年後を考えるのか。でもその8年後は1ヶ月後の話に繋がりここを解決する、総合計画にはその8年後を書くのですから、サステナビリティと表現していいのかわかりませんが、「誰もが」という話や、どこでもっていう話と、未来世代に対しての話になります。だからどうしても三次元、四次元になると思います。とりあえず書ける事としては二次元ですが、それ以外のことを補足しておくところのイメージを共有することができるので大事と思いました。

(会長)色々なスケールをもつということ、空間的にも1つなのか、昔の10個の市町があり、集落もあり、もちろん家庭、個人もあるなど、そして時間軸でも長い時間もあれば短い時間とか目の前のこと、そのようなことを考えながら想像するといいかもしれませんし、こういう時にはこういったスケールで考えたらいい、スケールを意識しながら計画を作ることも大切かもしれません。この後の検討していく必要があると思います。

(事務局)先ほど委員から共通した言葉、キーワードが必要ではとのご意見をいただきました。確かにそうだと思います。考え方に「つながる」という思いの部分をもどの項目にも入れておりましたが、なかなか分かりにくい部分もあると感じております。「つながる」だけではなく、もう一つ何かがあればまだ分かりやすくなるのではないかと思います。委員皆様からも、何かいいアイデアがありましたら

お願いいたします。また、副会長からご意見をいただきました10個集まって天草市という考え、また小さく分けると集落や最終的には家族、そういったものそれぞれが頑張り集まっていくっていうこと。以前お話しさせていただきましたが、1人でできる事と10人でできる事、1000人で、そういった見せ方ができれば市民1人1人がともに一緒に頑張り天草市を作るためにはつながっていくことが重要とっております。

(会長)キーワードとして理念がそれを指していたかも知れませんが、こういったことを大切にしたいということを確認し続けることだと思います。「つながる」や、「ともに」かも知れませんが、時間や空間といった色々なスケールで考えることかも知れませんが、本日ご意見を整理し、それを将来像や理念へ反映させていただければと思っております。キーワードといった考え方を重要視してまとめておくことも重要だと思っております。それを意識し、これからの事業や、各政策・施策計画を描かれると思っておりますし、地域活動へもそういったことを意識して考えていただければと思っております。例えば、「つながり」から色々な意味の働き方をしてもいいかもしれないので。ぜひ、大切にしたいような言葉やキーワードを確認しているのが今やっていることと思っておりますので、是非とも意識していただきたいと思っております。持続可能、持続性もありました。色々なことがあったと思っておりますがそれをどんどんと上げつつも、全部上げていくとキリがないのでバランス的にはまとめていくいいと思っております。

(委員)アンケートでは出ていないのですが、天草は皆さんの「ふるさと」であると思っております。なんで人が集まっていて、暮らしやすいのかと、なぜかと考えると、おそらく本当に何の説明もなく「ふるさと」だからというのがひとつあると思っております。大阪や東京の方で暮らしていても、やっぱり戻ってきたいと思っております。それは、自分たるスタートの場所で一番大切だからということだと思います。だからこそ、ここを盛り上げたい、良くしたいと根本的な部分はそのところにあるって思っております。「ふるさと」の言葉はあんまり今まで出てこなかったのですか。「ふるさと」って言葉は難しすぎて使われてこなかったのか、その辺ちょっと逆に皆さんにお伺いしたいと思っております。この天草だからこそ、それぞれの文化があり、ひとつのまとまった地域というところは、シビックサイドという言葉として結構出てくると思っております、この天草はいいところだから人に勧めたいや、そういうところでつながっているという気がします。当たり前すぎて言い方が難しいかとも思うのですが、その「ふるさと」の良さや、温かみのあるそういう方がふるさと天草には自分の知り合いとしているなど、みんながもうひとつになっているのが天草と思っております。

(会長)目指す姿として押し込む必要はないのかもしれませんが、場合によってはそういった「ふるさと」を感じたやシビックサイドが人に勧めたいなど、いつでもここに繋がってほしいと思えることが重要ではないかと共感しました。それをフレーズとして掲げるのか、大切にしたい理念としての考え方として出しとくかなどあると思っております。「ふるさと」は確かにシンプルにみんな言うけれども結構大切に

もしれません。

(事務局)住んでいる人も訪れた人もそして生まれ育った人たちも幸せが実感できる島、まちにできればと思っています。関係性、関係人口などのあたりでの政策、施策計画の部分で考えて行けるのではないかと思います。

(会長)色々な測り方をすることで確認するのもありだと思います。宝島をどう考えるということもあるでしょうし、つながるとか幸せ実感とかもあると思います。さらに、理念って言い方しているところの要素もあるわけです。みなさんがふるさとと思えるかどうかってことを測り、そのことを理念で具体化していくことも大切だと思います。どこかで使おうという感覚で必要な要素として出していくことも重要だと思います。

(委員)「ひと」を視点を置いた理念のところ、「未来を創る人が育つまち」とありますが、これだけを読んでしまうと、対象が子どもと言いますか、教育の視点と見ました。この計画は8年後の話なのでSDGsもそうですが、今は多様性がすごく取り沙汰されていて、障がい者の方や、色々な国の方などそういったところを認め合おうという働きがとても大きいと思います。8年後ではなく、もちろん今もそうかもしれませんが、そういった観点で色々な人を受け入れる、外部の人も受け入れる、色々な立場の人も受け入れる、文化も受け入れるみたいな、そのようなところを「ひと」に合わせていくのはどうかと思いました。

(事務局)理念の説明の中には、多様な文化や認め合いの言葉を入れていますが、そこにもうひとつ「ひと」の視点ですので、多様性という部分は何らかの形で表現できればと思います。

(会長)今説明いただいている4つの切り口でいいと思います。しかし、もう1つ切り口が必要とあっていて、第2次総合計画では、自治体経営がありました。いい地域を作る、いいひとのつながりを作っていく時には、市役所がどういう活動をするかが結構大きなところだと思っています。市役所って視点もあれば、みんなで一緒になって作っていく地域の自治の在り方かもしれません。自治体の在り方はかなり重要な事だと思っています。プロの公務員がいて、そのプロの人たちが何をやるかによってここにあるような稼ぎにつながるや、安心や、それをともに作るなどそういったところに大きな違いが出てくると思っています。市民の皆さんが頑張ればいいってことはもちろんあるのかもしれませんが、それだけではなく、プロの職員である公務員がいて、いい市役所の経営があって、いい地域をつくるために地域の在り方や実態を丁寧にしながら着実に進めていくことで、高いレベルでできることが結構あると思います。ここで言いたいことは、今の4つはすごくバランスいいと思うので、4つにプラス1なのか4つに付けるのかは今後考えるとして、自治体のことを掲げるべきではないかとじゃないかと思いました。そうして2030年の天草市の姿の時に、市役所の公務員の皆さんの能力があり、行政の在り方をきちんと示していく必要があると思いますので。もちろん、職員の人材育成や働きがいの話もあれば、職員の集団としてのチームの組織力みたいな話もあると思います。それ以外にも活用できる財源や資源、情報もあります。ごく

当たり前のことですが、そういった自治体経営のこと、さらにはサービスの在り方やテクノロジーを活用するなど今は行政経営改革大綱というところを固く言っていますが、自治体、行政経営の在り方も一緒に議論していくテーマだと思います。自治体の部分も総合計画の上できちんと基本構想レベルから2030年目指すといった方がいいと思います。総論としてまずは言っとかないといけないとか、具体論としては基本計画で作成されると思いますが、そういった要素を加えることは必要と思っています。いい地域にはいい市役所がありますし、いい市役所がある地域はいい地域になる訳ですから。表裏一体の姿が重要だと思いますので。事務局の方はいかがでしょうか。

(事務局)第2次天草市総合計画では5番目の柱として「自治体経営が安定したまち」を掲げ取り組みを行っています。先ほど会長のご意見のとおり、行政がしっかりしておかないといけないところを掲げていたところでした。私たちも自治体経営の部分はどうするか本当に非常に悩みました。現在はこの4つの理念の中で、自治体経営を取り組んでいくことを考えておりました。基本構想に上げるという考え方と、この4つを、まずは下支えすると言いますか要と表現してはおかしいかもしれませんが、やはり主役は市民という事を前提に置いて行政は支援する、ともに活動するし、盛り上げていくという役目と考えたところでした。このことが私たち行政の本当の役目と考えており、行政だけが頑張ってもいけないと考えており、あえて自治体のことを1つの理念として掲げていなかったところでした。最初冒頭に説明しましたとおり、市民という表現を私達としておりますので、そういった所も含め、あえて自治体経営を掲げなかったところでした。会長からのご意見もありましたとおり、本当に自治体の財政が破綻してしまえばもうどうにもなりませんし、4プラス1などの形で今後基本構想の方に盛り込んでいけなかなと考えているところでした。委員皆様のご意見をいただければと思います。

(副会長)今事務局から説明がありました市民の言い方を私達としたというところはすごく映えるアイデアだったと思います。札幌の総合計画の見直しを手伝った時でもですが、総合計画は行政の計画だけではなく、市民の方にこれをしてくださいといえる訳ですよ。だからこそ、総合計画を作っていくって意味でいうと、4たす1や2よりは4かける2ぐらい。行政の方はこうやります。だから市民はこうやりましょうみたいな、市民が自分ごととしてできるように、絵本などでもいいかと思っていますが、総合計画の読みくなくことで、幸せの意味も教えられくらいの総合計画の教科書みたいなものがあると、市民の皆さんも一緒にともに作っていくということになると思います。中学生でも分かるような総合計画がすごく大事だと思っていて、最近だとSDGsの勉強もしていますし、天草の中学校や高校で学んだ子ども達は違うところですが、本当のサステナブルだと思っていて、行政の方も必要だけど市民の方も必要ではないかと思いました。

(委員)私も同感です。小学生、中学生、高校生が分かり合うということが必要だと思います。あと、この4つを束ねるような考え方として、例えば持続可能や市民ファ

ーストといわれる市民の目線に立った行政サイドの運営などになると思いますので。

(会長)やはり自治体の方もこういうような基本構想を目指すときにこういうような理念を持ちたいとか、ここにたどり着きたい、財政もしっかりしていくといった色々なこときちんと掲げた方がいいと思います。それは市民に対しての責任でもあると思います。市民とともに創るや私達という言い方をし、市政も含めて私達という言い方をしているのであれば、尚のこと地域にとって重要で直接的に皆さんが負担してとはいえないかもしれませんが、皆さんと一緒にやって作り上げている市役所のことを堂々と掲げていただいた方がいいと思います。たとえになりますが、2030年の姿では実は財政的には厳しいです、これは別に隠しているわけでもなく本当はもっと堂々と言った方がいいと思っています。合併した後もどんどんと財源も絞られていく中で、限られた中で事業を進めていかななくては行けない訳ですし、だからこそ職員1人1人がすごく重要になってきていて、職員は人口が減ると合わせて職員の数も減っていく訳ですから、だからといってやる事が減っていく訳ではないわけですから、今のままだと忙しすぎる状況になるだけです。しかし、その中でもきちんと職員の方々の働きがいや意識があってやっていただいている訳ですからこの部分はきちんと維持していきたい、高めていきたい。こういうことができるからこそ、天草市の未来の姿だと思います。事務局として市議会へも堂々とそこは言ってもらった方がいいと思います。市の職員は重要で、職員の能力を上げないといけない、それこそ市の職員がどんどん勉強し続けていただくことで、地域に役立つことを皆さんに気づいていただければそれだけいい地域になってもいきます。ある意味お金がかかるので、堂々と言った方がいいと思いますし、職員の能力に限らず、限られた財源をどう有効活用する、行政の仕組みをこういうものと連動させていこうなど、それがあからこそ市民の皆さんが色々なことをやってもきちんと一緒にやって取り組んでくれる市の職員がいることが実感できると思いますので。大きな柱として、ぜひ基本構想のところで自治体の未来の姿を作っていく、それは持続性も重要ですし、能力を上げていくことも重要だと思います。

(委員)今までの色々な意見を聞いて、考えたのはふるさとって言葉ですね。この響き、たたき台の一つとして、「ともにつながり幸せ実感宝の島、ここにふるさと、次天草」ということですね仮に表現すれば、全部が変わってくると思いました。

(会長)今日重要な観点で「ふるさと」のことありましたし、色々なところに反映すべきだと思いますので、ご検討いただければと思います。この部分にはセンスもあるかと思いますが、委員方も一緒になって考えてもらっていいと思います。いくつかそういった案を作っていただくといいかなと思います。

(副会長)つながり方で例えば公民連携などの言い方もありますが、行政は全部に関わってくるので、もう一度考えるとやはり、4かける2の部分なのかもしれないと思いました。それぞれの分野でそれぞれの継承、事業承継だとかそういう繋がり方もあるし、誰もがというような受け入れ方やつながり方、このつながり方を具体

的に勉強していけば、たとえば、産業の作業変換っていうのも当然あるでしょうし、時間によってきますが、そういうつながり方に長けたまちみたいなところに「ふるさと」という言葉がすごく大事だと思いますけど、逆に強すぎるとよそ者が受け入れられないっていうことにもつながってくると思うますので。どっちが大事だっていう意味では、誰でも仲良くなれるということが最も大事ですが、チャレンジに溢れたまちということも大事だと思います。そのつなげ方として先ほどは4つの中に全部同じ言葉があるということ、それはすごくいいアイデアだと思います。自分事として読んでいったらまずはこれをして、次はこういう意味につながるといった、ロードマップみたいなものが自分自身で作れるようになることも大事だと思いますので、教科書ガイドみたいな要が書かれたものをどのように読み解くかというところが一番大事だと思いますので、合わせて考えておいたほうがいいかなと思いました。

(会長)つながりの部分は結構重要な要素です。この天草はつながり方に長けており、日本で一番、世界で一番と表現してもいいかもしれません。この部分は重要で、大きな要素だと思います。割り切ってというか、思い切って面白そうなことを言ってもいいと思っています。例えば、鳥取県大仙町の総合計画では「楽しさ自給率日本一を目指します」と表現されています。楽しさの自給率は自分達で日本一と細かくは覚えていませんが、多分そのようなことを言っていました。それで、天草市は、「つながり方」という部分を日本一に長けている市みたいなことを別段思い切って言ってもいいと思っています。そのくらい思い切ってもいいと事務局にプレッシャーになるかもしれませんが、残していこうかと思っています。今回は事務局だけの宿題ではなく、委員皆さんにも日常的にアンテナを張っていただき、次回の審議会で色んな議論ができればと思います。

以上